

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を!

'83年10月来館者数	46,667名
通算1ヵ月平均来館者数	4,271名
当月1日平均来館者数	1,795名
通算来館者数	420,169名

社団や財団、労働組合や民主団体 などの『収益事業』課税のねらい

田中健介

国税庁は昭和五十六年十一月二十日に、法人税基本通達(法律ではなく行政の内部指示事項)の改正を行い、「公益法人及び人格のない社団等の収益事業課税」の強化を図ってきました。

これに伴って昨年三月頃から社団や財団、宗教法人、学校法人さらには人格のない社団等(労組や民主団体、婦人や平和団体、PTA、学会など無差別に「事業内容及び給与の支払状況についてのお尋ね」なる文書を送りつけてその団体の定款や規約、事業報告書、収支決算書や役員名簿、財産の状況などの提出を求めています。

現在、わが国では憲法に保障された団結権、団体行動権、結社権にもとづいて多数の団体が活動しています。公益法人の営む事業で公益か? 収益か? その判断は課税当局が行うという構えです。

したがって、公益法人の確定申告

には、「収益事業の部分の決算書」だけでなく「その団体の財政活動すべての関係書類を提出せよ」と改悪しました。これら一連の収益事業課税のねらいは、

1. 軍拡、福祉切りすでの臨調路線のもとでの大型間接税の導入、申告納税制度の改悪による国民的収奪を背景に国民の民主的諸権利に対する課税権力介入と干渉という強い政治的意図をみる事ができます。
2. 国民に対して新たに納税を課して現行の租税を変更するには法律若しくは法律の定める要件によらなければならぬ(憲法三〇条八九条)。違憲の通達行政の改悪といわなければなりません。
3. 本来営利を目的としない団体が一定の事業例えば物品の売買を行ったとしても、その収益は特定の個人の所得となったり、営利法人のように配当されるものではあ

りません。形式が売買であっても実質は公益の目的に使われる資金です(実質課税の原則)

4. 国税庁の指示したお尋ね文書がとくに寺院や労働組合に集中しました。このため不公平税制をただす会は、昨年九月通達の撤回を求める申し入書を国税庁長官に提出、また財団法人、全日本仏教会も「税務行政が宗教活動そのものに関与してくる危険性がぬぐいきれず」として通達の一部廃止を国税庁に要望しています。

5. 大型間接税の導入をやめさせ、申告納税制度の改悪反対、大衆的国民的な三兆円減税の実現をめざす国民運動のよりあがりに対して大衆運動つぶしをねらう民主団体などへの「収益事業課税」に労働組合、民主団体は共同し団結して通達撤回のためがんばろう。(税理士・平和協会監事)



来館者の 声から



今、地球上には、この地球を三〇回爆破することができる量の核兵器があるそうです。地球上に住んでいるちっぽけな人間同志、いつまで殺し合わなくちゃいけないんでしょ。もう人間は自分達だけのことを考えるのではなく、地球レベル、宇宙レベルで物事を考

第五福竜丸船体内の本格修理へ

専門的調査はじまる

「ポロポロの船体の腐朽をどう食い止め、万全の保存への修理補強をどう行なうか」——船体内の本格修理にむけての専門的調査が東京都の手により十一月下旬から開始される。調査と並行して、船室中の清掃、いたんだ木材の補修も行なわれることになった。

九月末までの数回の打ち合わせにもとづいて、十一月四日、専門家と東京都の間で会合がもたれ、調査費を都が計上、来年度からの本格修理のための調査委託を専門家に行なったもの。木造の建造物

えていかなければならないと思えます。でないと、また悲惨なことが起こりかねません。しかし人間って下等ですよ。失なって初めてそのもの大切さがわかるなんて……。もう、あんなまちがいはおこらないことを願ってやみません。早く地球に本物の「平和」がおとずれますように……。そして最後に、核兵器で命をおとした方々のごめいふくを心からおいのり致します。

東大附属高校 Non子

文化祭で原爆についてクラスで発表することになり取材に訪ずれました。今まで「にんげんをかえせ」や「予言」の映画などを生徒に見せてきましたが、より直接的な第五福竜丸を見学して生徒たちも原水爆の悲惨さにおどろいたようです。世界から核兵器をなくしようというこのことへの起きないよう祈ります。

草加市立花栗中 宮本清

第五福竜丸を見学して文化祭でもうまくやっていけそうな気がしました。戦争や原爆のおそろしさがいたいほどわかりました。今日のこの見学は一生わすれないと思います。花栗中 一年九組一同

原水爆についてアメリカだけを非難することはできません。世界の原水爆保有国がすべて廃止すればと願うとともに、この現状をしっかりと見つめて、核廃絶を訴えなければならぬと思う。平和利用に使うのならもっと安全性を考えるべきだと思ふ。それができないのなら核を使うべきではない。

高2 J・S・G 齋藤

編集後記

▼十月、十一月は、社会科見学でたくさん学校の見学に訪ずれ、展示館の中にもぎやかになる。先生が子どもたちに「見ぶり手ぶり」で原水爆の恐ろしさを伝えていた。先生と生徒の親近感を伺い知ることができた。平和教育の場としても展示館の存在価値があり、水爆をうけた証人としての第五福竜丸の大きさははかり知れない。

▼中学生、高校生になると見学だけではものたりなさを感じるのか自分たちで原水爆問題を考え、文化祭の企画をたてる。学校によってこういう内容は流やらないとか暗いとかでまったくあつかわれないところもあるのに、感心するばかりである。とくに女子の意気込みは男子以上でしっかりとっているのには興味深い。

▼展示館来館者があつという間に通算四〇万人を越えました。十月八・九・十とたくさんのお見学者を迎えたからです。十日は創立以来の最高記録二万人を更新しました。三日間の間、手伝ってくれた方々にお礼申し上げます。(も)

文化祭訪問記(二)

心ひかれた生徒たちの感想文

十一月六日、町田市にある和光学園の「和光祭」をのぞいてみた。中学一年三組の展示は「平和に生きる権利を求めて」として、戦争と平和の問題をとりあげていた。

「子どもたちから象をうばったもの」「林和枝さんが残したものの」「第五福竜丸にたくした願い」であった。

「人の生き方から学ぼう」と、各テーマ毎、体験者を探し訪ね、話を聞くことをポイントにしたという。「語りつぐ十五年戦争」では、満州の引揚者が、生徒の肉親

感動が伝わってくる生徒たちひとりひとりの感想文……。それらが「事件」を伝える写真や新聞と共に展示され、生きた資料として、見る者に訴えてくる。

「学園祭で第五福竜丸のことをとりあげるので、乗組員の方の話をうかがいたいのです」と、榛葉先生から連絡があったのは、九月末である。大田区に住む、大石又七さんにお願ひしたところ、快よく引き受けて下さり、十月二三日展示館でおちあうことになった。

秋晴れのすがすがしい日であった。和光学園からは、担任の榛葉先生と八名の生徒たちがみえた。「死の灰が降った時、どんな気持ちでしたか」「その時の魚の状態について教えて下さい」……

早速、用意した質問をする生徒たち。答える大石さん。共に真剣である。大石さんがこのように、子どもたちに事件の話をするのは初めてという。

「普通の人と同じなんだよ、という気持ちから、無理に言わない面があったのかもしれない。最初の時、犯罪者のような扱いを受



けたことが、私の気持ちの中でもとに思っていると思うんです。」いっしょにいらした、専門学校に通う娘さんも、家で詳しい話を聞いたことは、ないという。

機会があったら、また展示館に寄りたいという榛葉先生。「名前と事実ぐらいはわかっているけど知らないことが多かったと、ずっしり重い感じですよ。生徒たちといっしょに来て、本当に良かったと思います。」

短かい時間であったが、貴重な交流であった。(は)

大石さんの談話

子どもさんに事件のことを語ったのは初めてですね。でも、以前から子どもさんには話したいという気持ちがありました。

子どもの心ってきれいだなと思いますね。一連の事件の長い経過を見たり、接したりすると、子ども心は正しいというか、きれいとい

うか、大ざっぱだが、そう思いますね。

反面、文化祭に行つて、子どもってこわいなあとも思いました。見たり、聞いたりしたことを、子どもなりにちゃんと、とらえているんですね。……少しは平和のために、何かをしなればと、今思っています。

平和への祈りをこめて

「生命への断食」

核兵器廃絶をめざすNGO日本宗教者連絡会議主催による「いのち

これから関心をもつて 高橋 しのぶ

第五福竜丸の展示館に大石さんの話を聞きに行きました。大石さんは自分たちがとったマグロが食べられないため、魚屋さんやお寿司屋さんは売れなくな

ちをえらびとる断食」が十月二三日、展示館前広場で午前九時から午後五時までおこなわれました。軍事費の転用で飢餓の追放を、と書かれた模断幕が展示館の外壁

に掲げられた広場には、日蓮宗や天理教、キリスト教などの信者がテントの下で寒空のなか座り続けました。展示館前広場でこれだけ多くの宗派が集つたのは初めてで

つくりとする人はいるんだから、もっともっとたくさんの人に戦争をしていけない、核兵器をつくってはいけないということ、知ってもらわなければならないと思います。

なぜ、核実験をし、核兵器をつくりとするのか？核実験場となった島などへの被害やそこに住む人々への影響は？また、その場所は今、どうなっているのか？そして核実験をやった兵士たちへの影響は？など、調べていくうちに、いろいろと疑問になってきました。

これらのことを知るために、文化祭が終つても、この問題に関心をもっていきたいと思ひます。(この感想は点字によって書かれました)

あり、それぞれの宗教による読経や讃美歌、天理教の神楽のつとめなどが平和への祈りをこめて唱えられました。宗教、宗派をこえ、心を一つにした「一日断食」は、サンフランシスコ、パリ、ボンなど欧米で広がる核兵器廃絶運動「生命への断食」に呼応し、また幾百万の飢餓の底にある人々や、原爆の後遺に悩む人々と苦悩を分かち合おうとする行為もこめてひらかれたものです。

お知らせ

賛助会員入会のお願ひにあたって、次の方々が新しく会員になってくださいました。(個人)大石又七、野坂参三、宮原国治、美濃部亮吉、三井周二、加藤庄太郎、鶴貝昌子、望月門八、服部勲、秋山修、寺地光治、秋月辰一郎、榛葉文枝、松村恵文。(団体)東京建設従業員組合、原水爆禁止日本国民会議(11月8日現在、到着順、敬称略)引き続き、平和協会の発展のため賛助会員の入会をお願いいたします。



大石さんの話を聞く、和光学園の生徒たち

かとても寂しかった。そして、第五福竜丸をこの展示館に置くまで、多くの人が協力してきたこともわかりました。だけど、それでもまだ戦争することに賛成する人や、核兵器を